

この映画について

第二次大戦中に東インド（現在のインドネシア）に住んでいたヨーロッパの人たち（そのうちオランダ人が 65000 人）の物語が映画化されることになる。この歴史的かつユニークな映画は、世界平和を願って、すべての国境と年代を超えた人々のために製作されます。

この映画は、ファン・ラールテ著「母への賛歌」を題材にした日本軍婦女子抑留所での物語です。また、母親から引き離され日本兵たちの慰安婦、つまり性の奴隸となることを強制された若い娘たちにも焦点が当てられます。10 歳以上の少年たちも、母親から離され少年抑留所に送られました。彼らは、そこで同胞たちの病と死に日々直面させられたのでした。

この映画製作のために、財団法人「勇敢だった母たち」が設立されました。財団理事会は、これまでに多くの優秀な作品を世に出てきた映画プロデューサーやシナリオ作家とともに、この映画を製作する著名映画監督とこのプロジェクトの実現に向けて準備を重ねています。

日本語訳

この映画が題材にしている本は、タンゲナ鈴木由香里氏により日本語に翻訳され、東京の「いのちのことば社」より出版されました。日本語訳の題名は、「母への賛歌」(ISBN987-4-264-02851-2)です。この日本語訳の本の前書きを日本の読者のために書いてくださったのは、御自身も抑留所の経験を持つ、前駐日オランダ大使、F.P.R.ファン・ナウハイス氏です。彼は、ご自分の一番大切な思い出の詰まった日本とその国民に、是非この本を読んでほしいと願っておられます。

オランダ在住の女流歌人 F 氏の申し出で、この本は皇后陛下美智子様にも贈呈されました。皇后陛下は、この本が日本語に訳されたことを殊のほかお喜びになられ、ご自身のオランダ訪問時のことなどお電話でお話されました。なおこの本は、優良図書にも選定されています。

アムステルダム、西教会で箏とヴァイオリンのコンサート

2011 年 5 月 21 日に後藤真起子氏(オランダ在住箏奏者)が、自身の家族の戦争体験とこの本からのインスピレーションをもとに、「メモリー」というコンサートをドイツ/日本人のヴァイオリン奏者と共に開催されます。